日本語中級学習者が作成した語彙リストの分析
―難易度、頻度、親密度の観点から―

髙橋　雅子

Abstract: Textbooks and reading materials in Japanese generally attached with word lists. In an attempt to question the significance of word lists prepared by textbooks and teachers in advance for intermediate level reading comprehension classes, the author prompted the learners to make word lists by themselves. The created word lists were then analyzed from the view point of difficulty, familiarity, and frequency. As a result, it was revealed that the overall choice of words in the word lists by learners were the ones to be leaned with in the intermediate level category. A closer look into their choice, however, revealed that the learners' selection sometimes included elementary level vocabulary or ones that are outside the criteria of difficulty, familiarity, or frequency. When the learners are accustomed to ready-made word lists prepared either by textbooks or teachers, some of learners might miss the opportunity to learn specific words unknown to them or the ones each particularly wants to know. The author believes that the word lists should always remain in the flexible process of building and rebuilding by mutual cooperation of learners and teachers.

Keywords: 日本語中級レベル学習者、語彙リスト、語彙の難易度、語彙の頻度と親密度

1．はじめに

1.1 研究の目的

外国語としての日本語の学習では、語彙リストが使用されることが多く、教科書や読解教材などには必ずと言っていいほど語彙リストが付いている。

柳澤・工藤（2010）では、市販されている５つの中級レベルの日本語の教科書の語彙リストを比較分析し、中級レベルの日本語の教科書では語彙リストが必要であるという考えが一般的であると述べた上で、語彙リストに載せる語彙の選定が教科書により異なっていることを指摘している。さらに、柳澤らは、５つの教科書のうち２つは、語彙リストの語彙の選定基準が明記されていないこと、残りの３つは初級レベルの教科書に載っていない新出語彙が選定されていることも分析結果として述べている。

本稿では、中級レベルの日本語の読解学習において、教科書や教師側が予め語彙リストを用意しておくことを疑問視し、学習者自身が語彙を選出し語彙リストを作成する活動を試みた。そして、学習者が作成した語彙リストに選出された語彙を難易度、親密度、頻度の観点から分析し、従来の語彙リストに掲載されている語彙の選定基準について再考することを目的とする。

1.2 研究の経緯

2012 年度前期に筆者が担当していた日本語中級レベル対象の「読解 J5」、「読解 J6」[1] の履修者から「読解クラスは難しい」という声が出た。その理由は、「語彙が多すぎる」、「語彙を覚えきれない」というものだった。確かに、毎回の授業で配布していた語彙リストには膨大な量

の語彙が載せられていた。

一方で、内容や段落展開の理解や指導方法についての意見は学習者から出て来ず、語彙についての意見が出たということに注目したい。読解の学習には、語彙の理解や語彙増やしは学習目標の一つであり、先行研究でも読解教育での教師による語彙の指導・支援は不可欠なものであることが触れられている。(山方 2008、舘岡 2012)

それを受けて、2012 年度後期の第 1 回目の授業では、「母語ではどのようなものを読んでいるか」、「どのような読み方をしているか」、「意味の分からない語彙があったらどのように対応しているか」について考える時間を設けた。すると、学習者は読み物の種類によってスキャニング、スキミング、精読など読み方を使い分けており、未知語彙に対しては前後の文脈で推測したり、友達に聞いたりと、さまざまな対応を取っていた（髙橋 2013a)。しかし、外国語である日本語の読解になると、意味が分からない語彙があると先に読み進めなくなってしまい、その都度、辞書や語彙リストで意味を確認しないと気が済まないという学習者が多くみられる。さらに、意味を調べるのが徐々に面倒になってしまい、読解学習が嫌になるという悪循環に陥っているようである。また、語彙リストに載っている語彙は全て覚えなくてはいけないという学習ビリーフが初級レベルの時期に形成され、中級の読解教材に付いている語彙リストの語彙数に圧倒されてしまっている学習者もいた。

上述のような学習者の状況を踏まえ、2012 年後期の「読解 J5」、「読解 J6」クラスでは語彙リストの配布を止め、代わりに学習者が自分で語彙リストを作成する活動を試みた。

2. 分析

2.1 分析データと方法

本稿では、2012 年度後期「読解 J5」、「読解 J6」クラスの学習者が作成した語彙リストを分析対象とする。クラスの履修者数は「読解 J5」が 9 名、「読解 J6」が 10 名であった。

授業では、1 回目の読みは辞書を使わず未知語彙があっても前後の文脈で意味を推測するように指示し、2 回目以降の読みは辞書の使用を認めた。その際に、学習者自身が自分にとって未知だと認識した語彙をリストに記入することとした。また、選出した語彙の中で自分が覚えたいと思う語彙に印をつける欄をリストに設けた [2]。その語彙リストに選出された語彙を難易度、親密度、頻度の観点から分析する。

2.2 語彙の難易度について

難易度は日本語能力試験 [3] の『日本語能力試験出題基準』にある語彙レベルの 1 級（上級）から 4 級（初級)、および級外で判定する。1 級から 4 級、および級外の判定には「日本語読解学習支援システム・リーディング チュウ太」を用いた。日本語能力試験は 2010 年に改定され、出題基準は現時点では非公開となっている [4]。そのため、本稿では改定前の旧日本語能力試験の出題基準を使用する。旧日本語能力試験の出題基準は頻度調査の結果、あまり日常で使われない文法項目が含まれており、コミュニケーション能力を測定するには適切ではないという指摘もある（江田・小西 2008、堀ほか 2009)。その一方で、旧日本語能力試験の出題基準は、日本語のレベルの判定や教科書のレベル設定などに広く使用されているのも事実である。

2.3 語彙の親密度と頻度について

語彙のレベル測定の判断基準は、上述の難易度をはじめ様々なものがあり、その一つとして親密度と頻度による判定もある。親密度とはなじみのことで、頻度とは出現回数のことである。

語彙の親密度・頻度はデータベースやコーパスを用いることで測定でき、それをもとに教科書・教材が作成されることもある。

徳弘（2005）は、頻度と親密度を考慮した提示順の漢字・漢字語彙の学習資料を開発した。上述の徳弘では「覚えることによって後で役に立つ漢字とはどのようなものであるかを考えたときに、まず思いつくものが頻度である。多くの人に共通に有用な漢字を選ぶためには、人が多く用いている漢字を選ぶことが基本であろう」、「親密度を学習資料に生かすことで、学習者は日本人にとってなじみのある字を優先的に覚え、より実践的に活用できるものを習得することになると考えられる」と述べている。

川村ほか（2008）は、レベル判定ツールの新基準として、単語の「親密度チェッカーと頻度チェッカー」の web 教材を開発した。ここでの単語親密度は、『新明解国語辞典見出し語』約 7 万語を対象語とし、18 歳以上の日本人男女 40 名がその単語になじみがあるかを評定し、その値を出したものである。一方、頻度は「朝日新聞における頻度情報に基づく分類（以下「朝日頻度」）」、「毎日新聞記事データベースから作成した分類（以下「毎日データ」）」、「読売新聞記事データベースから作成した分類（以下「読売データ」）」がある。本稿はこの「親密度チェッカーと頻度チェックカー」を使用し親密度と頻度を測定する。なお、「朝日頻度」は 10 段階のものと 6 段階のものがあるが、「毎日データ」と「読売データ」が 6 段階であるので、統一するために 6 段階のものを使用する。

3. 分析結果と考察

3.1 難易度による分析結果

11 回の授業で「読解 J5」9 名、「読解 J6」10 名の学習者が、自分にとって未知と判断し語彙リストに記入した語彙数と、それに対応する日本語能力試験のレベルを表 1、表 2 に示す。なお、語彙数は複数の学習者が同じ語彙を選出した場合でも「1」と数えた。

表 1 「読解 J5」の学習者が選出した未知語彙数と対応する日本語能力試験のレベル

	授業 1 回	授業 2 回	授業 3 回	授業 4 回	授業 5 回	授業 6 回	授業 7 回	授業 8 回	授業 9 回	授業 10 回	授業 11 回	合計 語彙数	%
級外	17	29	25	19	18	6	11	12	3	11	12	163	33.6
1 級	5	6	8	9	9	2	16	9	—	16	9	89	18.4
2 級	16	10	20	16	20	8	23	18	15	23	18	187	38.6
3 級	4	1	8	3	3	3	2	6	2	2	6	40	8.2
4 級	2	1	—	—	—	2	—	—	1	—	—	6	1.3
合計	44	47	61	47	50	21	52	45	21	52	45	485	100.1

表 2 「読解 J6」の学習者が選出した未知語彙数と対応する日本語能力試験のレベル

	授業 1 回	授業 2 回	授業 3 回	授業 4 回	授業 5 回	授業 6 回	授業 7 回	授業 8 回	授業 9 回	授業 10 回	授業 11 回	合計 語彙数	%
級外	30	20	29	23	15	13	22	20	13	18	21	224	42.3
1 級	11	16	10	15	14	11	9	10	12	17	10	135	25.5
2 級	11	14	14	9	12	21	16	12	14	16	16	155	29.3
3 級	5	1	—	1	1	—	—	—	—	—	2	10	1.9
4 級	—	—	—	—	—	3	—	1	1	—	1	6	1.1
合計	57	51	53	48	42	48	47	43	40	51	50	530	100.1

日本語中級前半レベルである「読解 J5」の学習者は、2 級語彙と級外語彙を多く選出している。一方、日本語中級後半レベルである「読解 J6」は、級外の語彙が 42%を占め、次いで 2 級、1 級語彙が選出されている。この結果は、学習者の日本語レベルからみると想定どおりの結果だといえよう。

その一方で初級レベルの語彙である 4 級の語彙が「読解 J5」・「読解 J6」とも 6 語ずつ挙げられていた。選出された 4 級の語彙は「コップ（選出人数 4 名）」、「カップ（選出人数 2 名）」などである。「コップ」と「カップ」については、授業中にこの二語について「日本人は使い分けているのか」という質問が学習者から来た。実際には、学習者にとってこれらの語彙は未知ではないが、授業で扱われ印象に残ったのでメモとして語彙リストに書き留めておいたということも考えられる。

表 3、表 4 は、履修者（「読解 J5」9 名、「読解 J6」10 名）の半数以上が未知と認識した語彙を示したものである。また、その語彙を覚えたいと思った人数と対応する日本語能力試験のレベルも併記した。

表 3 を見ると、日本語中級前半レベルである「読解 J5」の半数以上の学習者が選出した未知語彙は 485 語のうち 27 語であった。難易度別にみると、級外が 9 語、1 級が 6 語、2 級が 10 語、3 級と 4 級が一語ずつであった。初級レベルの語彙である「封筒」は、履修者 9 名中 6 名が未知と判断し、5 名が覚えておきたい語彙と認識している。

表 3 「読解 J5」履修者の半数以上の学習者が未知と判断した語彙と人数

未知語彙と判断した人数	覚えたいと思った人数	語彙（日本語能力試験の級）
7	5	的外れ（級外）
	4	索引（2 級）
6	5	封筒（4 級）
	4	削り取る（級外）、同調する（1 級）、錯覚（1 級）
	2	圧力（1 級）
5	5	収容人数[5]（級外）、持ち味（級外）、便宜上（級外）、 きちょうめん（1 級）、引き返す（2 級）、わざと（2 級）、片道（2 級）
	4	熟読（級外）、身障者（級外）、根回し（1 級）、 賢い（2 級）、求める（2 級）、祝う（3 級）
	3	農夫（級外）、流暢さ（級外）、呼び止める（1 級）、活躍（2 級）、 贈る（2 級）
	2	反映する（2 級）、大臣（2 級）

表４ 「読解 J6」履修者の半数以上の学習者が未知と判断した語彙と人数

未知語彙と判断した人数	覚えたいと思った人数	語彙（日本語能力試験の級）
9	6	干渉する（1 級）
8	7	寛容（1 級）
	6	面食らう（級外）、さぞかし（級外）
	5	低迷（級外）
	4	奉仕（1 級）
7	6	驕り（級外）
	4	ひときわ（級外）
6	6	ぎこちない[6]（級外）
	4	まして（1 級）、新米（級外）
5	5	素早い（1 級）、
	4	社交辞令[7]（級外）、円滑（1 級）
	3	海賊版（級外）
	1	最先端（級外）

「読解 J6」の半数以上の学習者が選出した未知語彙は 530 語中 16 語であった。難易度別にみると、級外が 10 語、1 級が 6 語、2 級・3 級・4 級の語彙はなかった。これは日本語中級前半レベルの学習者にとって妥当な結果だと言える。

3.2 親密度と頻度による分析結果

表 3 と表 4 の語彙を対象に親密度と頻度を判定し、結果を表 5、表 6 に示す。

「親密度チェッカー」は 4 段階で判定される。表 5 を見ると「読解 J5」の学習者が選出した 24 語の語彙のうち、親密度が最も高い Level 4 はなく、Level 3 が 5 語、Level 2 が 7 語、Level 1 が 8 語、その他が 4 語であった。一方、頻度は 6 段階で判定され、どの判定分類でも頻度が高い Level 6 に判定されたのは「求める」、「活躍」の二語であった。他には「贈る」、「反映する」、「大臣」などが高い頻度であったが、全体的には「その他」が多くみられる。

表 6 で示した「読解 J6」の学習者が選出した 14 語の語彙のうち、親密度が高い Level 4 はなく、Level 3 が一語、Level 2 が 5 語、レベル 1 が 7 語で、その他が一語であった。頻度は「低迷」が「朝日頻度」で Level 6、「毎日データ」で Level 5、「読売データ」でその他であった。残りはレベルが低く、全体的に「その他」が多くみられた。

表 5 「読解 J5」の半数以上の学習者にとって未知語彙の親密度と頻度

語彙	難易度	親密度	「朝日頻度」	「毎日データ」	「読売データ」
求める	2 級	Level 3	Level 6	Level 6	Level 6
贈る	2 級	Level 3	Level 5	Level 6	Level 4
祝う	3 級	Level 3	Level 4	Level 4	Level 2
封筒	4 級	Level 3	Level 2	Level 1	Level 5
きちょうめん	1 級	Level 3	その他	その他	その他
活躍	2 級	Level 2	Level 6	Level 6	Level 6
大臣	2 級	Level 2	Level 5	Level 5	Level 4
持ち味	級外	Level 2	Level 2	Level 5	その他
賢い	2 級	Level 2	その他	その他	Level 5
錯覚する	1 級	Level 2	その他	その他	Level 2
片道	2 級	Level 2	その他	その他	Level 4
引き返す	2 級	Level 2	その他	その他	その他
反映する	2 級	Level 1	Level 6	Level 6	Level 5
同調する	1 級	Level 1	Level 4	Level 3	Level 1
わざと	2 級	Level 1	その他	その他	Level 5
熟読	級外	Level 1	その他	その他	Level 1
的外れ	級外	Level 1	その他	その他	その他
農夫	級外	Level 1	その他	その他	その他
索引	2 級	Level 1	その他	その他	その他
便宜上	級外	Level 1	その他	その他	その他
削り取る	級外	その他	その他	その他	その他
呼び止める	1 級	その他	その他	その他	その他
身障者	級外	その他	その他	その他	その他
流暢さ	級外	その他	その他	その他	その他

表 6 「読解 J6」の半数以上の学習者にとって未知語彙の親密度と頻度

語彙	難易度	親密度	「朝日頻度」	「毎日データ」	「読売データ」
最先端	級外	Level 3	Level 1	Level 2	その他
まして	1 級	Level 2	Level 3	Level 1	Level 4
素早い	1 級	Level 2	Level 2	Level 3	Level 2
奉仕	1 級	Level 2	Level 2	Level 2	Level 1
干渉する	1 級	Level 2	Level 2	Level 1	Level 1
新米	級外	Level 2	その他	その他	その他
低迷	級外	Level 1	Level 6	Level 5	その他
円滑	1 級	Level 1	Level 3	Level 2	その他
ひときわ	級外	Level 1	その他	Level 1	その他
寛容	1 級	Level 1	その他	Level 1	その他
面食らう	級外	Level 1	その他	その他	その他
さぞかし	級外	Level 1	その他	その他	その他
海賊版	級外	Level 1	その他	その他	その他
驕り	級外	その他	その他	その他	その他

3.3 分析結果と考察

学習者が未知と認識し語彙リストに選出した語彙について分析した結果、難易度の観点から見ると、全体的な傾向として「読解 J5」、「読解 J6」の学習者の日本語レベルに合っていたといえよう。その一方で、初級レベルの語彙であっても履修者の半数以上が未知語彙と選出されている語彙もあった。初級レベルの 4 級の語彙である「封筒」は親密度が Level 3 で日本人にはややなじみのある語彙である。頻度は「読売データ」は Level 5 と高かったものの、「朝日頻度」は Level 2、「毎日データ」は Level 1 とさほど頻度が高くなく、あまり使用されていない語彙であることを意味する。そのため、学習者も未知と判断したのであろう。これについて、髙橋（2013a）では、学習者インタビューから普段の生活で使用しない語彙は初級レベルであっても未知として判断されると説明している。

また、3 級の語彙である「祝う」の親密度は 4 段階中の Level 3 である。頻度は 6 段階中「朝日頻度」と「毎日データ」が Level 4 で、「読売データ」は Level 2 である。日本人にとってはなじみがあり、若干使用頻度は低めではあるが使用する語彙であると言える。難易度・親密度・頻度からみても初級で学習する語彙を中級レベルの学習者の半数が未知と判断し、語彙リストに選出したことに注目したい。

親密度・頻度は高いほど、初級レベルの学習に向いている語彙であると考えられ、日本語のレベルが高いほど親密度と頻度の低い語彙や「その他」と判定された語彙が未習語彙となる。今回の分析結果を見ると、親密度は日本語中級前半レベルである「読解 J5」、中級後半レベルである「読解 J6」、それぞれのレベルで適切なバランスで未知語彙として選出されていた。しかし、頻度を見ると「読解 J5 」では Level 4 ～ 2 がほとんど見られず、頻度の高いものと「その他」に偏りが見えた。「読解 J6」では中級後半らしい頻度の語彙が選出されていることが確認できた。

4. まとめと今後の課題

本稿では、学習者が作成した語彙リストに選出された語彙を難易度、親密度、頻度から分析を行った。全体的な傾向としては学習者は自身の日本語のレベルに合った語彙を未知語彙としてリストに選出していた。しかしながら、細かい部分に目を向ければ、教師や教科書作成者が語彙リスに選出しないような初級レベルで習得する語彙を半分以上の学習者が未知と判断し、頻度の低い語彙を覚えたいとリストに印をつけた学習者が見られた。

教科書に付いている語彙リストや教師が作成した語彙リストは、学習者にとって学習の支援となるリソースの一つである。しかし、難易度・親密度・頻度に目を向けてばかりで語彙リストを作成すると、学習者にとって未知の語彙や覚えたいと思っている語彙を取りこぼしてしまう可能性もある。

一方で、学習者が語彙リストを作成することに対する問題点がいくつか挙げられる。

まず一つ目は、学習者の意欲や取り組み方に差が出てしまうことだ。リストに語彙を記入することや辞書で意味を調べることに億劫さ感じる学習者は、語彙リストをほぼ白紙で提出したこともあった。対策として、授業では作成者の了承を得てから、OHC に何人かの語彙リストを映してクラス全員に見せた。各自が作成した語彙リストおよび学習方法をクラスで共有することによって、学習者の学びの意欲が高まることを期待したが、その効果については手ごたえが感じられなかった。

二つ目は、学習者自身に語彙を選出させると、中級レベルで学ぶべき語彙の取りこぼしが出てくることだ。これに対しては、教科書・教材の中にある重要語彙のいくつかを授業中に取り

上げ、意味や用法の説明し、コロケーションなどを紹介した。しかしながら、読解の授業で語彙の学習ばかりに時間を使うことはできず、駆け足での説明・紹介になってしまったことは否めない。

また、学習者に語彙リストを作成させると学びたい語彙だけを取り上げてしまい、語彙の分野に偏りが出る、語彙の量が増えないという指摘もあるだろう。確かに、新しい語彙を指導・支援することで学習者の日本語の表現の幅は広がる。しかし、教科書作成者や教師の側の基準で一方的に語彙や学習項目を選定することの危うさを常に意識しておく必要が教師にはあるのではないだろうか。

本稿の分析データは数が少なく、また結果もばらつきが見られた。しかしながら、学習者は一人一人が違う個としての存在であることを考えると、作成した語彙リストに個人差が出るのは当たり前のことと言えるであろう。この結果をもとに、語彙リストは学習者と教師の双方で作り上げていく柔軟で動的なものであるという捉え方ができるのではないだろうか。

注

本稿は拙稿（髙橋 2013a）のデータの量を増やし、語彙の親密度と頻度の観点を加えて分析を行ったものである。また、2013 年度日本語教育学会研究集会第 4 回北海道地区での発表の際にいただいたコメントを参考に執筆したものである。

参考文献

押尾和美・秋元美晴・武田明子・阿部洋子・高梨美穂・柳澤好昭・岩元隆一・石毛順子（2008）「新しい日本語能力試験のための語彙表作成にむけて」『国際交流基金日本語教育紀要』4, pp.71-86.

江田すみれ・小西まどか（2008）「3 種類のコーパスを用いた 3 級 4 級文法項目の使用頻度調査」『日本女子大学紀要文学部』57, pp.1-28.　日本女子大学文学部

川村よし子・北村達也・冨岡洋介・林真一（2008）「単語親密度と頻度情報を活用した難易度判定システム」『日本語教育方法研究会誌』15, pp. 24-25.　日本語教育方法研究会

国際交流基金・日本国際教育協会（1994）『日本語能力試験出題基準』凡人社

髙橋雅子（2013a）「日本語中級学習者の語彙リストに対する意識－学習者の作成した語彙リストと短文から－」『立教大学ランゲージセンター紀要』29, pp.51-60.　立教大学ランゲージセンター

――――（2013b）「学習者にとって覚えたい語彙とは－中級読解クラスの学習者の作成した語彙リストと短文、およびインタビューから－」日本語教育学会研究集会第 4 回北海道地区　資料

舘岡洋子（2012）『日本語教育叢書「つくる」読解教材を作る』スリーエーネットワーク

徳弘康代（2005）「中上級学習者のための漢字および漢字語彙学習資料の開発」『講座日本語教育』41, pp.41-57.　早稲田大学日本語研究教育センター

堀恵子・荒川みどり・小池恵己子・小林佳代子（2009）「日本語能力試験出題基準の機能語を対象としたコーパス調査－目標言語使用領域での課題遂行に必要な項目を検証する－」『2009 年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.194-199.　日本語教育学会

山方純子（2008）「日本語学習者のテクスト理解における未知語の意味推測― L2 知識と母語背景が及ぼす影響―」『日本語教育』139, pp.42-51. 日本語教育学会

柳澤絵美・工藤嘉名子（2010）「教科書語彙リストのあり方について－新中級教材開発に向けた予備調査－」『東京外国語大学留学生日本語教育センター紀要』36，pp.101-111．東京外国大学日本語教育センター

甲南大学「親密度チェッカーと頻度チェッカー」
http://basil.is.konan-u.ac.jp/chuta/level/　（2013.7.28　アクセス）
日本語読解学習支援システム・リーディング チュウ太「レベル判定ツール」
http://language.tiu.ac.jp/　（2013.7.28　アクセス）
日本語能力試験「日本能力試験とは」
http://jlpt.jp/about/index.html　（2013.7.28　アクセス）
立教大学日本語教育センター「日本語教育プログラム　開講レベル」
https://cjle.rikkyo.ac.jp/level/default.aspx　（2013.7.28　アクセス）

「J5 読解クラス」使用教科書

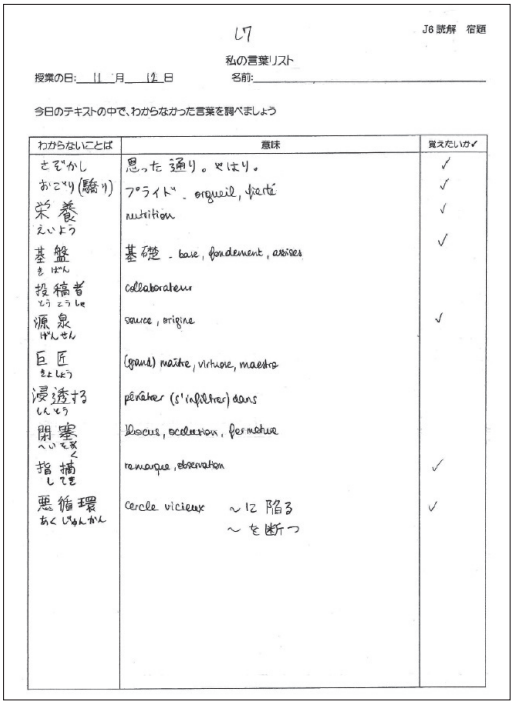
産能短期大学日本語教育研究室編（1991）『日本語を学ぶ人のたちのための日本語を楽しく読む本・初中級』産能短期大学国際交流センター
土岐哲・関正昭・平高史也・新内康子・石沢弘子（2001）『日本語中級 J301 －基礎から中級へ－英語版（改訂版）』スリーエーネットワーク
松田浩志・太田純子・木川和子・荒井礼子・亀田美保（2003）『テーマ別・中級から学ぶ日本語（改訂版）』研究者
三浦昭監修・岡まゆみ著（1998）『中・上級者のための速読の日本語』The Japan Times

「J6 読解クラス」使用教科書

石黒圭編著・熊田道子・筒井千絵・Olga Pokrovska・山形裕美子（2011）『留学生のための読解トレーニング』凡人社
大阪 YMCA 日本語教師会編著（2009）『パターンで学ぶ日本語能力試験 1 級読解問題集』J リサーチ出版
鎌田修・椙本総子・冨山佳子・宮谷敦美・山本真知子（1998）『中級から上級への日本語』The Japan Times
三浦昭監修・岡まゆみ著（1998）『中・上級者のための速読の日本語』The Japan Times
三上京子・山形美保子・青木俊憲・和栗雅子（2005）『読むトレーニング・応用編－日本留学生試験対応』スリーエーネットワーク

参考資料

学習者が作成した語彙リスト



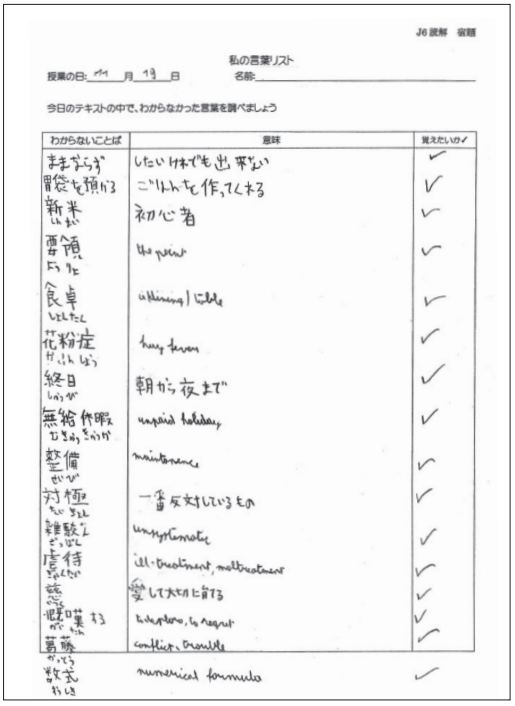
L7　J8 読解　宿題

私の言葉リスト

授業の日: 11 月 12 日　名前:

今日のテキストの中で、わからなかった言葉を調べましょう

わからないことば	意味	覚えたいか✓
とぼかし	思った通り。やはり。	✓
おごり(驕り)	プライド、orgueil, fierté	✓
栄養 えいよう	nutrition	✓
基盤 きばん	基礎 - base, fondement, assises	✓
協力者 きょうりょくしゃ	collaborateur	
源泉 げんせん	source, origine	✓
巨匠 きょしょう	(grand) maître, virtuose, maestro	
浸透する しんとう	pénétrer (s'infiltrer) dans	
閉塞 へいそく	blocus, occlusion, fermature	
指摘 してき	remarque, observation	✓
悪循環 あくじゅんかん	cercle vicieux　～に陥る ～を断つ	✓



J8 読解　宿題

私の言葉リスト

授業の日: 11 月 19 日　名前:

今日のテキストの中で、わからなかった言葉を調べましょう

わからないことば	意味	覚えたいか✓
手を出さず	したいけれども出来ない	✓
胃袋を預かる	ごはんを作ってくれる	✓
新米 いまい	初心者	✓
要領 ようりょう	the point	✓
食卓 しょくたく	table à manger	✓
花粉症 かふんしょう	hay fever	✓
終日 しゅうじつ	朝から夜まで	✓
無給休暇 むきゅうきゅうか	unpaid holiday	✓
整備 せいび	maintenance	✓
対極 たいきょく	一番反対しているもの	✓
雑駁な ざっぱく	unsystematic	✓
虐待 ぎゃくたい	ill-treatment, maltreatment	✓
誇張する こちょう	愛して大切に育てる	✓
囁く ささやく	whisper, to insinuate	✓
葛藤 かとう	conflict, trouble	✓
数式 すうしき	numerical formula	✓

---

1) 立教大学の短期留学生用日本語プログラムは、J0（初級）から J8（超級）の 9 つのレベルの日本語授業を開講している。J0 から J3 レベルは「読む・聞く・書く・話す」の四技能統合の授業を行い、J4 レベル以上は「文法」、「読解」、「作文」、「聴解会話」と技能別にクラスが設置されている。詳しくは立教大学日本語教育センターのサイトを参照。
2) 学習者が作成した語彙リストは参考資料を参照。
3) 日本語能力試験は独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会が共催で実施している日本語を母語としない人たちの日本語能力を測定する試験である。2009 年までは上級である 1 級から初級の 4 級までの 4 つのレベルに分かれていたが、2010 年に試験が改定され、レベルが N1 から N5 までの 5 段階となった。詳しくは日本語能力試験サイトを参照。
4) 日本語能力試験の実施機関である国際交流基金と日本国際教育支援協会は「日本語能力試験の改善に関する検討会」を 2005 年に発足し、新しい試験に合わせた出題基準の構築を進めている（押尾ほか 2008）。
5) 「収容人数」は、「収容」が 2 級、「人数」が級外と二語に区切って判定された。学習者の作成した語彙リストには「収容人数」と区切らずに書かれていたため、本稿でも区切らずに一語として載せた。親密度・頻度の判定でも二語に区切って表示されるため、分析の対象外とした。
6) 「ぎこちない」は、「ぎこち」・「ない」と二語に区切って判定され、それぞれが級外であった。学習者の作成した語彙リストには「ぎこちない」と区切らずに書かれていたため、本稿でも区切らずに一語として載せた。親密度・頻度の判定でも二語に区切って表示されるため、分析の対象外とした。
7) 「社交辞令」は、「社交」が 1 級、「辞令」が級外と二語に区切って判定された。学習者の作成した語彙リストには「ぎこちない」と区切らずに書かれていたため、本稿でも区切らずに一語として載せた。親密度・頻度の判定でも二語に区切って表示されるため、分析の対象外とした。